

踏み跡 < My mountains >



飯豊の山波全体が一望できる。10時30分出発。
(左写真: 杵差岳山頂より飯豊連峰核心部)
銚立峰南鞍部11時35分、吉野が風邪気味のため今日は予定を繰り上げて頼母木平までに変更。薬を飲ませて、草原で二時間の大休止。
大休止を利用して山溪の「カラー山の花」を片手に、寝そべて花の勉強。

ハクサンフウロ、マツムシソウ、ミヤマシシウド、コバイケイソウ……。長い休憩時間を終えて13時35分に出発。
頼母木平15時15分、天幕を張った後雪溪で雪上訓練。目の前に杵差岳が手に取れるような大きさ、素晴らしい天幕場だ。ウイスキーで乾杯して夕食。19時30分就寝。

昭和41年8月6日 曇り時々雨 <頼母木平→北股岳→御西岳>

起床4時30分、今日は鶉飼が風邪気味。昨夜天気祭りと呼ばれてウイスキーで乾杯したのに、いやな空模様だ。
出発6時30分、降り出した雨も地神山(1849.5m)まで来るとあがりはしたが、湿っぽいガスの中で体がすぐに濡れてくる。7時15分ポンチョをはずして身軽になり、門内岳に向かう。門内の水場は小さな雪溪のよだれのような水量で、喉を潤す程の流れではない。

頂上に鳥居のある北股岳(2024.8m)はガスの中で10m先が見えないほど。海拔2000mを越えて、いよいよ飯豊連峰の核心部に入って来た。9時30分、記念撮影だけして9時45分に出発。

鞍部の梅花皮(かいらぎ)小屋10時。小屋は雨を避けて時間をつぶす連中で満員。しかも食事時なので長逗留する人が多い。我々もここで昼食とする。今日の行程の残り三時間を頑張れるようにとクジラの大和煮の缶詰も開ける。

なだらかな稜線が続く御西岳への道は霧の中で変化も乏しいが、飯豊ではもっとも植物の豊富などころ。コイワカガミ、ハクサンコザクラ、ヒナウスユキソウ、ミヤマキンポウゲ……。景色が見えないことは物足りないことではあるが、花の眺めだけでも充分に来た甲斐がある。

13時50分御西小屋に到着。御西岳頂上(2012.5m)を往復。頂上でインスタントジュースを拾い、15時雪溪脇の草原に幕営。新潟沖の低気圧が三陸に抜けたため、それに伴う前線の移動が今日の不安定な天候に繋がったらしい。まだ前線が残っているため、明日の天気も心配が残る。いよいよ飯豊本山は目前に迫った。
夕食の後はラジオで浪曲を聴いて、20時に就寝。

昭和41年8月7日 快晴 <御西岳→飯豊本山→三国岳→川入→一の木→山都→郡山>

起床4時40分、天幕から顔を出すと、凄い!! こんなにうれしい朝があっただろうか。

目の前の飯豊本山は今にも飛び出しそうな朝日を抱きかかえるようにしている。その姿が天幕場の池塘に映り、この世のものとは思えないような素晴らしい景色。大日岳、牛首岳も緑の腹に朝日を受けている。

出発6時20分、ヨツバシオガマに別れを告げて、牧場のような草原の中のプロムナードを飯豊本山へ。



飯豊本山(2105.2m)7:15、磐梯、朝日の山々も見え



踏み跡 < My mountains >

るし、勿論過ぎし日を過ごした杵差岳への稜線も鮮やかに。この眺望を楽しまねばここまで来た意味がない。スケッチと写真撮影を存分に楽しみ、7時35分出発。(写真:飯豊本山頂上にて三枚)

途中飯豊山神社を覗いて、御前坂の下り。切合小屋で伊佐領への道を分けて、三国岳(1644m)。

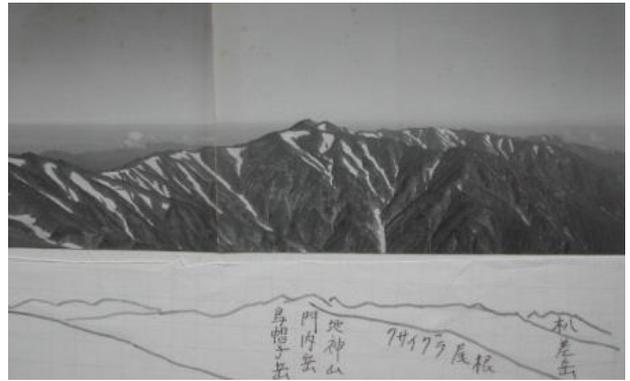
地蔵小屋11時、長い下りに備えて昼食と大休止。

11時50分下山開始。長坂尾根と名がつく尾根を南へ下ると今までのような稜線の涼風は得られず、汗は

どンドン流れて止まらない。一時間ほど下ると「中の十五里」という地点に豊明水と表示のある水場があった。顔を洗い、おさぼるような水を飲んだら爽やかな気分が蘇った。大白布沢に下りた所が御沢小屋13時05分、ここはもう海拔 568m、2000mの飯豊山の稜線はもう遙か彼方に流れ去ってしまった。

ここからは山道を抜け出してトラック道になる。川入小学校(海拔 468m)まで来て、最後の水の補給をして下り始めたら、先ほど上って行ったライトバンが戻ってきて、乗せてくれると言う。げっそりするような林道歩きも車の世話になり30分で済んだ。一ノ戸川に沿って下り、バス終点の一ノ木の集落(277m)に14時40分に到着。バスを待つ間に河原で体を洗い、飯豊山神社に無事下山の報告。

バスは16時発、磐越西線の山都駅に16時45分着。駅前で健闘を祝してラーメンとアイスクリームで打ち上げ。18:17 発郡山行は蒸気機関車。郡山で夕食をとり、23時04分発の夜行列車に乗った。



昭和41年8月8日 天気なんかどうでもいい <上野→帰宅>

上野着4時34分。来週の反省会の日取りを決めてすぐに解散。

自宅帰着は5時55分。今夜からもう仕事が待っている。

*註:別冊「飯豊連峰縦走記」に詳述あり

以上

(修正・更新:2023年11月)